**平成27年度　事業報告書（平成27.4.1～平成28.3.31）**

**特定非営利活動法人　ふくしま支援・人と文化ネットワーク**

**1．**音楽、演劇、講談などによる啓発活動事業

(1)文化による啓発活動

　①「チェルノブイリの祈り　トーク＆講談」を開催しました。

当初は車座朗読会を企画していましたが、「チェルノブイリの祈り」の著者であるスベトラーナ・アレクシェービッチさんのノーベル平和賞受賞を記念して、高橋哲也さんをゲストに招いてのトークと講談のイベントに変更して開催しました。

　　＊開催日：2016年3月29日（火）

　　＊会場：亀戸・カメリアホール

　　＊内容：高橋哲也さん「原発と私たちの未来」

　　　　　　神田香織さん「チェルノブイリの祈り」

　　＊参加者：273人

　②以下のイベントに協賛・協力をしました。

　　＊益子陶板彫刻美術館「朝露館」オープンセレモニー参加（2015.5.17）

　　＊東日本大震災チャリティー朗読会（2016.2.28）

　　　　　　　　　　**＊総執行額：461,330円**

　(2)シンポジウムの開催

　　　　計画通りに年2回開催しました。秋のイベントは会場の利便性がよいために、参加者が増加しました。福島の現状を知らせる機会が少なくなった今、福島に暮らす人たちの声が直接聞けるこのようなイベントは重要と思われます。

　　　1）猪狩弘之さん「語り部が語るふくしまの今」

＊開催日：5月31日

＊会場：JICA地球ひろば

＊参加者：75人

2）講演会・パネルディスカッション

「あれから5年フクシマ-放射能被害の現状と科学する市民」

講演：鈴木薫さん（いわき市民測定室たらちね事務局長）

パネラー：崎山比早子さん（元放射線医学総合研究所主任研究官）

　　　　　鈴木薫さん、神田香織理事長

＊開催日：11月22日

＊会場：明治大学リバティーホール1021

＊参加者：110人

　　　　　　　　　　**＊総執行額：206,959円**

(3)広報による啓発活動

　　①機関紙「此処彼処」の内容を充実させて、今年度は年3回発行しました。

　　　＊発行：6月、11月、3月

　　　＊発行部数：各1500部

　　②メルマガ配信：随時イベントの情報などを配信した結果、参加が増えました。

　　③ホームページ：製作会社に管理を委託し、内容の充実を図り随時情報を発信しました。

　　　④Facebook：今年度取り組みました。気軽に情報を発信できるツールとして活用しました。

**＊執行額：413,132円**

　2．福島在住の人たちへの支援とネットワークづくり

　　1) 現地を知り、交流するツアーを実施しました。今回は1泊2日で開催したため、大変充実した内容になりました。また、ネットワークも広がり次回のツアーに繋がりました。

　　　＊開催日：9月12～13日

＊内容：会津電力、奥会津視察、放射能仮設焼却炉反対住民との交流

＊参加者：23人

**＊執行額：594,106円**

　　2）全国から寄せられた福島の人たちへの支援をコーディネートしました。

　　　　福島の人たちへ物品寄付の申し出に対して調整をして、その思いを現地に繋げました。

　　　　・米～児童養護施設3か所

　　　　・みかん～幼稚園、児童養護施設、知的障がい児・者施設など3か所

　3．脱原発とエネルギーシフトの推進

1）古里原発ツアー開催

　　昨年度から連携をしてきた韓国・古里原発反対住民運動とさらに連携を深めるために、またアジアの原発の状況を知るために、古里原発視察を実施して現地で一緒に反対アピールをしました。さらに数多くのメディアにも取り上げられたため、住民運動の周知も高まりました。その結果、数日後に古里原発1号基の廃炉が決定したことは、私たちにとってもうれしい結果でした。

＊開催日：4月17日～20日

＊訪問地：古里原発反対住民団体（釜山）、広島・長崎原爆被害者支援住民団（テグ市）、高圧送電線反対住人運動団体（蜜陽市）

＊参加者：24人

2）古里原発ツアー報告会

有意義だったツアーを共有するために報告会を開催しました。また、原発企業を訴訟している崔さんを招いてお話を聞きました。

　＊ゲストスピーカー：崔勝久さん（原発企業訴訟団）

　＊開催日：9月4日

　＊会場：本郷文化フォーラム

＊参加者：　12人

**＊執行額：92,873円**

　3）連続学習会

　　　エネルギーシフトに関して、理解を深めるために学習会を開催しました。

　　　今年は試みとして少人数で開催しました。

　　　＊開催日：3回開催（10/1.10/22.11/12）

＊内容：①くらしとエネルギー～「日本は資源のない国」という神話はいつ作られたのか

　　　　　　　　　地域自給エネルギー資源の可能性を考える～

　　　　②ソフトエネルギーの経済性～「耕作型」エネルギーと「掠奪型」エネルギー～

　 　 　③原子力利用　巨大科学技術の落とし穴

～究極の公害　原子力（核）利用と放射能汚染～

＊参加者：述べ21人

**＊総執行額：9,000円**

4．放射能から子どもたちを守る活動

　1）「リフレッシュハウス」の提供。

　　　　問合せの中には安価な宿泊所と考える人も目立ち、当初の目的に合わない現状になってきました。また、遠方にあるため、当NPOで管理に責任が持てないと判断し、現在あるハウスは閉じることにしました。

　2）リフレッシュキャンプの支援。

　　①新潟キャンプ

　　　　福島市のたけのこ保育園の園児たちと母子家庭の母子によるキャンプを実施しました。子どもたちはもちろん、母子家庭の母親たちにとってもリフレッシュになりました。

　　　＊実施日：8月10日～16日

＊対象者：福島市内の保育園児および母子家庭など34人

＊場所：新潟市

　　②会津キャンプ

今まで年長組の保養に支援をしてきましたが、園からの希望で今年度は比較的保養に行く機会のない年中児の保養事業に支援をしました。

＊実施日：10月29日～30日

　　　　＊対象者：いわき市郷が丘幼稚園年中児48人

　　　　＊場所：裏磐梯

　　　　　　　　　　　　　　**＊執行額：500,864円**

　3）文化による出前公演の実施

　　　昨年の実施した影絵グループ「あけびの会」の影絵公演が大変好評だったので、今年度は独自事業として開催しました。震災直後は子どもたちへの文化公演も多くありましたが、現在はほとんど無い状況の福島県内での出前講演は、重要と思われました。

　　　　＊開催日：10月14~16日

＊内容：影絵の公演

　　＊対象者：幼稚園、保育園・障がい児・者施設など4か所の子ども・成人たち

**＊執行額：354,692円**

5.　福島のコミュニティー再構築の支援活動

　 1)コミュニティー再生事業

　　①若者の人材開発事業

地域の再生には若者の人材開発が不可欠です。長野県小諸市のエコビレッジを拠点とした社団法人「わくのび子ども塾（社団法人）」と連携をして、アフリカのブルキナファソの音楽家とダンサーによる自己啓発を目的としたキャンプを開催しました。年齢的に難しい中学生の参加でしたが、外国の人とのコミュニケーション、アフリカダンスなどは貴重な大変となりました。

　　　＊実施日：7月25日～29日

　　　＊場所：小諸市エコビレッジ

　　　＊参加者：南相馬市の小・中学生38人

　　　　　　　　　　　　　　　　　**＊執行額：26,744円**

　　②文化による支援事業

　　　南相馬市で歌、講談の文化を通して、現地の人たちの心のサポートをしました。

＊実施日：2月21日

＊対象者：南相馬の住民たち100人

＊場所：福島県南相馬市ひばり生涯学習センター

**＊総執行額：99,395円**

　２）被災者支援事業

　　①Tシャツの販売

　新デザインのTシャツの仕入れ販売に取り組み、収益を保養事業に充てました。

②ミニタオルの販売

いわき市のコットン販売している「企業組合おてんとうSUN」の共同事業として、ミニタオルを販売し、収益を保養事業に充てました。

**＊総執行額：268,344円**

　3）復興支援事業

　　　復興に取り組でいる福島の団体を調査して理事会で支援を決定し、執行しました。

また、支援金が有効に活用されているなどのヒアリングをしました。

　　　助成先は以下です（1団体10万円）。

・NPO法人まつもと子ども留学基金

・原発情報センター

　　　・NPO法人いわき放射能市民測定室

　　　　　　　　　　　　　　　　　**＊執行額：300,000円**

6. 組織運営

　(1)理事会を8回開催して事業を推進しました。

　　　　開催日：4/15、5/7、6/10、7/29、9/24、11/25、1/13、3/3

　(2)会員拡大の努力をしましたが、会費収入は目標55万円に比べ、実績は45万円に留まり、

対策が必要です。

　　　正会員112人（▼15人）、賛助会員47人（▼2人）、団体正会員2（△1）

　(3)寄付金収入は1,366,158円、目標比110％となり、昨年度よりも約6万円の増加になりまし

た。しかし、延べ寄付者数は減少しており、寄付者の固定化が進みました。寄付者のすそ野

を広げることが必要です。